

令和5年5月16日



# 琴中だより

(第5号)

倉敷市立琴浦中学校

## 自然教室に行ってきました -校外学習第1弾！-

5月11日(木)に、1年生の自然教室を実施しました。改装2年目になる倉敷自然の家での日帰り実施でしたが、所内オリエンテーリングや竹パン作りなどに、仲間と協力して取り組みました。お天気も良く、有意義な活動になりました。「あっ、これ一緒にしよう!」とか「先にやっついでいいよ。」などの優しい声掛けがたくさんあって、これからの中学校生活がたいへん楽しみに思えました。

現地集合・現地解散での実施は初めての試みでしたが、保護者の方々のマナーのよさのおかげで、円滑にできました。ありがとうございました。

いよいよ明日17日からは、3年生が沖縄修学旅行に出発します。沖縄に行くのは、琴浦中の「5年越しの願い」です。しっかり学習し、思い切り楽しんで帰りたいと思います。



## P T A総会での話

先日のP T A総会の冒頭で、お話ししたことを別紙に掲載いたします。

ご一読いただければ幸いです。

学校長の中川と申します。本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。こうして対面で総会を開催できるのは、実に、3年ぶりです。私も、それぞれの学年の入学式でしか、皆さんにごあいさつできなかつたのですが、今日の日が実現できて、大変うれしく思っております。

4月からの学校の様子は、「生徒も教職員もやる気一杯！」という一言で表せます。いっぱいやる気を高みに導いてまいりたいと考えております。今年度もご理解とご協力をお願いいたします。

実は、この会を意識するようになったころから、小学校5年生の担任の三好先生が行った「グループ漢字テスト」の情景が、何回もよみがえってきていました。

6人ずつの班単位で漢字テストに挑戦し、班全員の平均点で競います。岡田さんが班長でした。私は、「親」という漢字がどうしても書けず、周りから「あんたが書けんと、負けるが！」とプレッシャーをかけられていました。その時、班長の岡田さんから「あのな、「木の上に立って見ている」、のが親じゃが！」と言われました。

オオっと思ひ出し、制限時間滑り込みで書けました。他の班に負けずに済みました。

私の父も母も、いわゆる「中卒」です。父は家業の農業に見切りをつけ、18歳の時に福岡の山奥から東京へ放浪しました。決して「上京」というようなよいものではなかったそうです。母は、下津井中学校にも通わず、家でミシンの内職をしていたそうです。

そんな両親なので、家で学校の話をして「へえ」とか「ほお」という生返事しか返ってきません。母に至っては、文字も読めないし、書けないので、住民票を取りに行くときなどは、住所や父親の名まえを、一緒についていった小学生の私が代筆していました。

これが私の親ですが、岡田班長の言う通り「木の上に立って」私を「見て」くれていた実感があります。「私らに勉強のことを聞いてもわからんからよ。勉強したいんだったら、あんたが学校でやらんとどうしようもないからよ。勉強以外のことは、応援するからよ。」と言われて続けていました。しかし、中学3年の進路懇談で、「野球のプロになる」と担任の先生に話したとたんに、先生より早く「あんたええかげんにせられーよ」と怒鳴られました。また、私が大学受験に失敗した時、母親はすぐ中学校の時の先生に相談に行ったようで「宮脇先生から紹介してもらおう。あんた、明日から広島へ行きなさい。」と予備校行きを言い渡され、1年後に合格を知らせた時には、電話口で初めて親父の泣く声を聞きました。「行きたかったけど行けんかった。それをお前に押し付けなくてよかった。」と言われました。

迷惑かけていたんだな、心配してくれていたんだなと、その時初めてわかりました。

今、全国の小学校・中学校では「生徒が主体的に学ぶ授業」とか「子ども同士が学び合う授業」を進めています。琴浦中学校もそうです。

ひねくれている私などは、「今までの子どもは、主体的に学んでいなかったから、そこを重点的に教育していきなさい！」と文科省が言っているように考えるのですが、今までの子ども、つまり今ここにいる私たちが、生涯にわたって、主体的に学ぶ意欲がない、とは到底思えません。それぞれ学校を卒業したのちにも、資格試験に挑戦したことがあるでしょうし、職場に新しく導入された技術を自分が活用できるように勉強したこと、新人さんに仕事をわかってもらえるよう試行錯誤したこと、なにより今の状況や伝統の味といったものを守り続けるために工夫していることなど、その時その時の目的、必要性に応じて、何らかの形で学び続け、それを活用してきていると思うのです。

それなのに今の子どもに「主体的に学ぶ授業」を展開し、その子が「どれだけ主体的か」を評価していこうとするのは、なぜなのか。

もしかすると今の社会が、子どもにとって、目的や必要性を見つけにくい環境にあるからではないか、と私自身は思っています。

私は両親から「私らは、知らんからよ」という方法で「自分でやらんと大変なことになる」という必要性を刷り込まれたわけですが、皆さんはきっと様々な方法をお持ちのことと思います。社会に出ても「学ぶ」ということがたくさんあること、そのために、今どんな「学び方」を身に付けておいた方がよいのかということ。なにより、目的や必要性がはっきりと見えなくても、世の中には意外に、なんとなくだけどやっというてよかったことや、そのときは無駄だなあと思っている、今になって考えると無駄だったかどうかなんて関係なくなることなど、折に触れて親の立場から子どもに語り聞かせていただきたいと思います。

最後に、「親」という字から「立つ」が消えると「木・見（キケン）」です。子どもの本当の危機に「木の上に立って見ている」のはよくありません。子どもの危機を察知したら迷わず、学校にご相談ください。

では、本日の総会では、今年度の活動方針や予算についてご審議いただきます。どうぞよろしく願いいたします。